

ヤマトオサムシダマシ

Blaps japonensis Marseul
コウチュウ目・ゴミムシダマシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は、古い納屋の藁屑等に生息している。本県では、1988年に坂井市坂井町蛸の古い家屋の軒下に積まれた瓦下より採集されたが、今回確認できなかった。本種が生息できるような古い家屋は確実に減少しており、注視が必要である。

種の特徴

体長 22.0 mm 前後。全身黒色で瓢箪のような独特な体型をしている。自然の森林や草原にはほとんど生息せず、古い家屋の床下や納屋の藁屑に生息している。

分 布

本州～九州に生息している。県内では、坂井市坂井町蛸でのみ記録がある。

生息を脅かす要因

本種は、自然の森林や草原にはほとんど生息せず、古い家屋の床下や納屋の藁屑に生息している。近年、そのような環境は減少しており、本種の生息数も減少していくことが考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、陶山（1988）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ベーツヒラタカミキリ

Euryoda batesi Gahan
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種を絶滅危惧種としてレッドデータブックに掲載している自治体は多く、近隣では石川県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。今回の調査では坂井市三国町雄島で数体が確認されたのみだが、今後嶺南地方の調査が更に必要である。

種の特徴

体長 26～34 mm。体は扁平。体背面、触角、脚は大部分が赤褐色で、光沢がある。成虫は6～9月に出現し、昼間はスタジイ等の洞穴に潜み、夜間に活動して、立ち枯れや朽木、太い生木の枯死部を這いまわる。灯火にも飛来する。

分 布

本州～九州・南西諸島に分布。本県ではおおい町冠者島、小浜市下根来、西津、旧名田庄村、坂井市三国町雄島で記録がある。2015年には若狭町内で採集されたとの情報がある。

生息を脅かす要因

本種が好む暖帯広葉樹林は、海岸林や神社等の社叢林として残っており、分布域の狭められた状態である。海岸林等は特に開発の対象となりやすく、本種の生息地の縮小につながる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、日本鞘翅目学会（1984）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○						○						

ムナコブハナカミキリ

Xenophyrama purpureum Bates
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に分布が狭く限定されており、本県はその東限域にあたり、これまで旧今庄町での1採集例があるのみであったが、今回小浜市内でも採集された。今後の推移を注視する必要がある。

種の特徴

体長約 20 mm。全体に弱い光沢のある黒色、上翅は鈍い赤色。主にブナ帯下域に生息しており、幼虫は谷筋のノリウツギに寄生する。梅雨時、夕暮れに日当たりの良い梢先等で飛翔し、稀に尾根に吹き上げられる。

分 布

本州（西部）と九州に分布する。本県では吹上げと思われる個体が旧今庄町木の芽峠で得られている。今回の調査では小浜市おにゅう峠で採集された。本県は分布の最北端に位置する。

生息を脅かす要因

自然の残された谷筋のような環境は開発が入りやすく、特に寄主植物が限定されている本種には脅威となり、今後の注視が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、石川むしの会（1998）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○			○									